

# 「信じる—見えないものに目を注ぐ」

聖句「わたしたちは見えるものではなく、—コリントの信徒への手紙  
見えないものに目を注ぎます」 II 4章18節—

# 部会だより

キリスト教  
保育連盟  
神奈川部会  
2011年8月23日  
第120号



## テーマ 〈よく耕された畑〉

ひかりの子幼稚園  
めぐみの子幼稚園

園長 豊 嶋 ときわ

ドイツ人女性で日本に宣教師として来られ、又幼児教育者として尽力されたゲルトルート・E・キュックリヒ先生は、1931年にキリスト教保育連盟を創設した時のメンバーです。

そのキュックリヒ先生にまつわるエピソードがあります。キュックリヒ先生が、関東大震災(1923年)に遭った後に、日本人の美しい心に触れたとおっしゃっています。それは「あの寂しく、悲しい苦しみの中

### 聖 句

ところが、ほかの種は百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のあるものは聞きなさい。

(マタイによる福音書13章8節9節)

でも焼け野原で懸命に朝顔の花の世話をしている人を見て感激した。私はその姿を見て日本に住む決心をし、子どもたちの世話をするようになった。」と語られています。

私たちも保育の中でチューリップやヒヤシンスの球根を育てたり、プランターにミニトマト、なす、イチゴ等を植えたり、畑のある園では、ダイコンやにんじん等を育てている園があるでしょう。種を播き、球根や苗を植え、しばらくして芽がでてきた時の嬉しさ、花が咲いた時の感動、豊かに実った時の喜びはひとしおです。この営みはなんと素晴らしく不思議なことだろうと思います。

そして、子どもたちと共に、植物を慈しみ育てる時、子どもたちの育ちに豊かな色彩を加えてくれるでしょう。美しい花を咲かせ、実を結ぶには、どうしたらよいのでしょうか。それにはまず、土が大切です。良い土、良く耕された土です。そこへ太陽の光がそそぎ、雨が降り、根がしっかりと張るのです。ある時は虫がきて葉を食べたり、雑草がはびこったりします。このため、世話をする人が必要です。

私たち、保育者も畑を耕すように

して、子どもたちの育ちの土台を耕すお手伝いをしているといっても良いでしょう。ですから、より良い保育を考える時、目先の成果ではなく、「子どもの育ちを支えるために、本当に必要なことは何か」を見極める事が求められます。そして、よく耕された畑となるように、子どもたちが園にあつて心豊かに過ごせるように、園の環境について、深く心を配る事が大切となるでしょう。

私たち保育者は、自分自身の心がよく耕された畑となるように、聖書のことばに聴き、生かされ、そして神様に寄り頼み、祈りつつ歩みたいと思います。そして、子どもたちの心に蒔かれた種から芽が出るように願いを込めて保育していきたいと思えます。

最後に東日本大震災に遭われ、いまだ苦しみ、悲しみの中にある人々のために、神様の癒しと慰めがありますようにお祈りします。



# 《テーマ》 我が園の防災対策

信頼の関係が大きな備えとなる

東洋英和女学院大学附属

かえて幼稚園

主任 大漣知子

皆さまの園と同様に、私どもの園でも、東関東大震災後、防災についての見直しの機会を与えられています。有事に、できるだけ冷静に判断し、安全に動けるための具体的な備えは必要です。

それについても、当然のことではありませんが、『子どもが大人を信頼して、安心して大人のことに聞き従う』関係ができていくことの大切さを思わされています。この関係は、まずは家庭の中で培われていくものでしょう。そして、その延長線上に保育者との関係が結ばれていきます。私たち保育者には、神さまから託されている幼子の大切ないのちを守る責任があります。万が一の大災害の時、「あなたたちのことを、出来る限り守ります。だから、落ち着いて、安心して私に従って来なさい。」と示し、子どもを不安と危険から守れるよう、日頃からの心を通わす

関係を重ねていきたいと思えます。

さて、安心と安全を前提にし、なお保障し続けたいことは『幼子の幸せな日常』です。このたびの大震災の後、通常の保育を続けるか否かを、どの園でも迷い検討されたことでしょう。私たちは、保育者が必要数備えられる以上は、園を開き、来られる子どもを迎え、通常保育をするという決断をしました。そして、その旨を保護者に丁寧に伝え、どうするかは、各ご家庭の考えを尊重する姿勢をとりました。

今後も皆様と共に、主を仰ぎながら、幼子とその保護者との信頼の関係を育んでいきたいと思えます。



今考えている防災対策について

宮の台幼稚園

主任 佐口千春

本園では、火災・地震・不審者侵入等を想定し、年間予定として月に一度、安全教室を計画し、実施しています。

## 年間安全教室 実施予定表

|    |                                       |     |   |
|----|---------------------------------------|-----|---|
| 4月 | 園内・園庭探検<br>門から外に出ないことや遊具の使い方を知る。      | 10月 | 火災訓練<br>非常ベルの音を聞き、園庭に逃げる。                               |
| 5月 | ベルの音を聞く<br>非常ベルの音を聞き、意味を知る。           | 11月 | 地震訓練<br>非常ベル・先生の声を聞き、地震と理解し、机の下に身を隠す。揺れがおさまったら、園庭に避難する。 |
| 5月 | バスの乗り方<br>遠足の前に、バスの乗り降りや目的地での注意事項を聞く。 | 12月 | 火災訓練<br>非常ベルを聞き、安全に身を守り、園庭に逃げる。(何分かったか、時間を計る。)          |
| 6月 | 地震訓練<br>先生の指示に従い机の下にもぐる。              | 1月  | 不審者対策<br>知らない人には、ついていけないなどの話を聞く。                        |
| 7月 | 水難・火災<br>水・川や海岸で気をつけること。花火の時の注意。      | 2月  | 交通安全<br>横断歩道の歩き方・信号の見方・ボールが転がった時は、どうしたら良いかなどのお話を聞く。     |
| 9月 | お迎え訓練<br>非常事態宣言を聞き、保護者のお迎えを待つ。        | 3月  | 火災訓練<br>枯れ草火災・火遊びの危険などのお話を聞く。                           |

他に、消防や警察・交通安全協会の方から、具体的なお話をお聞きする機会も設けています。

昨年は、着衣に火が移った時の対応として「ピタコロごろん」を紹介して頂きました。



火が付いてしまったら、慌てず騒がず「ピタ」と止まる。「コロ」と寝転がる。「ごろん」と身を左右に動かす。子ども達も一緒にやってみた事でよく理解できた様子でした。

三月に東日本大震災を受け、幾つかの問題点があり、防災に関する対応の見直しをし、防災マニュアルを作成し、以下の事を考えています。

停電や連絡手段が絶たれたり、交通渋滞、預かり保育や園児が広範囲から来ている事で、保護者がすぐにお迎えに来られない場合を想定し、防災用具の備蓄整備を進めています。

連絡手段として、災害用伝言ダイヤルを利用する事も検討中です。毎月1日と15日に体験できる機会があるので、職員で試し、保護者へ子どもたちの安全を発信できる手段として、活用していきたいと思っています。

## 我が園の防災対策

関東学院六浦幼稚園

主任 鈴木直江

過日、私達は東日本大震災という今までに体験した事のない大きな地震に遭いました。当日は、保護者会の総会を終え殆どの人達が幼稚園から帰宅していましたのでそれほどの混乱もなく園庭に全員が避難し、その後津波の危険性がある事を知り隣の小学校の3階に移動しました。預かり保育の子ども達のお迎えを待ち教職員全員が帰宅したのは、すでに日付が変わる頃でした。

この経験から私達はこれまで当たり前のように思っていた事が、安全と安心の上に成り立っていた事を再確認し園の防災の在り方を見直す事になりました。子ども達との避難訓練は今までも行っていました。回数を増やし園に慣れていない5月頃から始めることにしました。また時間もクラスに集まっている時だけでなく自由活動中にも行う事になりました。子ども達が避難訓練を通して状況に慣れる事・恐がらない事を目的にしていますが、様々な状況を設定する事により災害時には導き手となる私達がそれらの状況に対応す

る判断力を身につける事も大切に考えています。その他には、防災グッズも再検討しました。宿泊する事も想定した寝具の用意・連絡手段としてトランシーバー・懐中電灯・ラジオなどの準備をしました。また、家庭への連絡がメール配信になり、より確実に早く家庭に幼稚園からの情報が伝わり、お迎えに来られるまで安心できるようにしました。まだまだ続いている余震に被災地の方々の事を思うと心が痛みます。どうぞ皆さまの励ましと支えが豊かにありますようにと祈ります。

## 備える時間を与えられて

御濠端幼稚園

園長 島田美緒

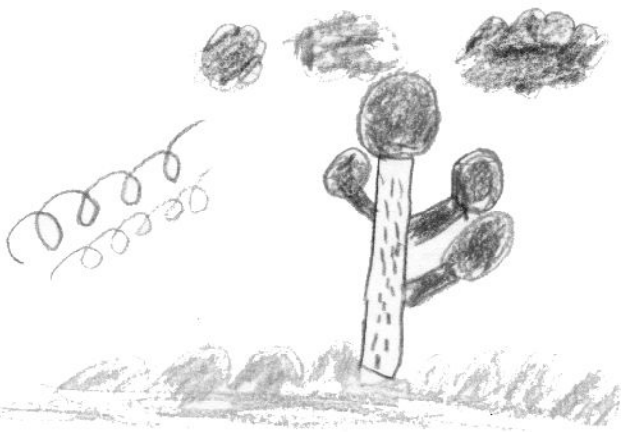
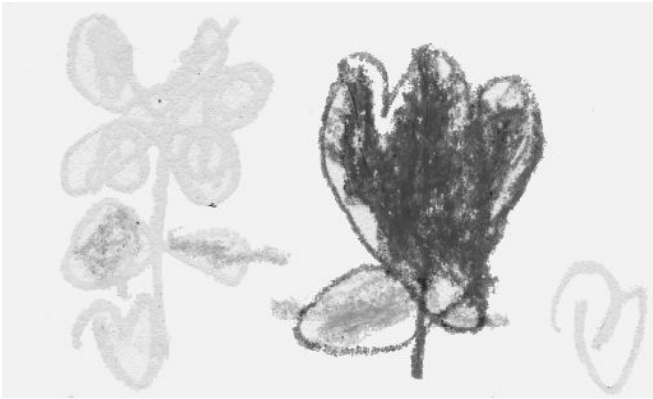
三月十一日の震災では、多くの方が犠牲となり、三か月経った今もお、困難の中にある被災地の方々を覚えます。主の慰めと平安そして希望を持って歩むことができますよう：そして私達も心を傾け、必要な相応しい助けをしていくことができますように、お祈り致します。

今までも、数十年以内に東海大地震が起こると言われ、小田原の地は、その影響も大きいとのことで、防災

のことや災害時の備えをしてきました。しかし、今回の震災を受けて再考しなければならぬ課題も出てきました。当園は海からも遠くなく、更に大雨で水浸しになることの多い土地です。大津波からの避難について、今までは、隣の工務店が三階建てで屋上があるので、いざという時には：と考えていましたが、五階建て以上となるとそこは対象から外れます。小田原城址公園がこの辺りでは一番の高台です。時間的余裕や状況が許されればそちらを目指しますが、非常時に大勢の子ども達を連れて避難するには少し距離がありま

す。幼稚園から道路を挟んだところに位置する五階建てビルの所有者の方に「緊急時には上がってきてください」と言っていたので、そちらへの避難となるでしょう。しかし、小田原城址公園まで、いろいろなルートでそれぞれの位時間が掛かるのかを検証しておきたいとも考えています。

震災に伴う原発の事故による放射能の影響については、正確な情報が出されること、そして最善の対策がなされ、一日も早い収束を願います。







## 防災対策

鶴沼めぐみルーテル幼稚園

園長 加部公子

三月十一日の大震災以降、当園ではこれまでの防災対策に加えて、改めて津波や、保護者との連絡がとれない状況を想定した対応を考え、これまでと同様に、学期ごとの訓練を実施します。

(当園の環境は海岸から約1km、住宅地で二階以上の建物は無い。園児は全員が徒歩圏内より通園)

地震発生時は教師の指示で園庭に集合、点呼、歩行可能になったら園から最短(百m弱)最高(標高約十五m)の神社に向って歩き始める。係りの教師は先頭から順に子どもたちを防災頭巾を配る。

保護者は、震度五弱以上の地震の際には園から連絡が無くても速やかに迎えに来る。園に迎えに来て、園児がいない場合は神社に向う。

保護者が迎えに来るまでにも必要な飲料水や食料、トイレに代わるオムツパンツ、冬の防寒用具等の準備も、職員と話し合ったり他園の情報も参考にしたりしながら進めています。



す。

また、今回の震災の折りに「幼稚園なら安心では…」と、乳幼児を連れとお母様が避難に来られたことを通して、併設の教会ホールに準備されている町内会の緊急救命物資を、共に管理していくことなど、地域に古くからある幼稚園として、災害時にお役に立てるような備えを整えていきます。

## 我が園の防災対策

相模翠ヶ丘幼稚園

副園長 齋藤はる江

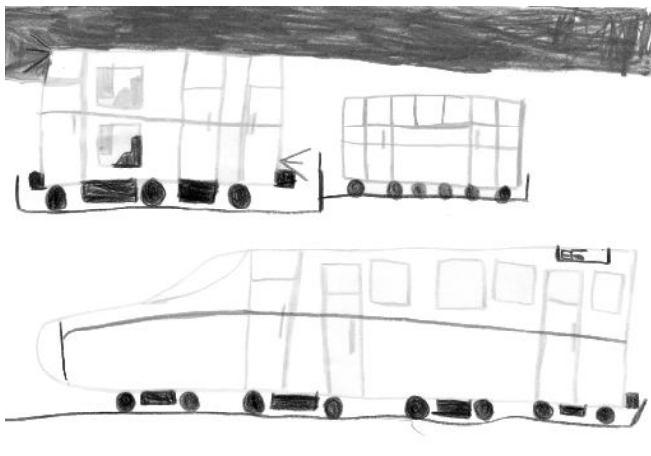
私達の園では、年度の初めに教職員自衛消防隊を組織し、消防避難訓練を計画して、月に一度の避難訓練を実施しています。月別に訓練内容を定め、保護者への周知も行います。その内容は、月毎に火事や地震を想定し、帰りの集まりの時や園庭やホールで遊んでいる時に、放送や肉声等で伝え上げきそのまま園庭に避難したり、教会ロビーに集まる等、いくつかの訓練方法を設定して行っています。終了後は避難訓練実施計画及び報告書に実施結果や反省点等を記録しています。毎年9月には保護者による引取避難訓練(大地震を想定し徒歩によるお迎えと園児は防災頭巾着用訓練)、11月には近くの消防署から消防自動車も来園し、実際に保育者が消火器使用訓練や119番への通報訓練にも取り組んでいます。

3月11日の大震災後には、非常用食料の備蓄も充実させたいと話し合っている、園児・教職員二食分の水・五目ご飯・クッキー(保存期間5年)を確保し、その他にも防災頭巾(園児用)、ヘルメット(教職員用)、ラジオ、

ろうそく、懐中電灯、釜戸、羽釜、教会と共有でエマージェンシーブランケット(防寒用)、お米、カセットコンロ、ガスボンベ、なべ類等を備えています。

又、昨年度末には、教会員の方々(幼稚園運営委員会メンバー、他)にもお手伝い頂いて、園舎全体のドアと窓ガラス飛散防止フィルムを貼りました。

今後も、皆で意識を高めつつ、他園の対策についてもお聞きし参考にさせて頂きながら、必要な事を考えたいと思います。



# 新任歓迎会に 参加して

## 幼稚園教諭になつて

早苗幼稚園

能條 瞳

私は、幼い頃から幼稚園教諭に憧れていました。今その教諭になれたことに感謝しています。子どもたちの個性を伸ばしながら、共に成長し、毎日が楽しいと思えるような園生活にしたいと思っています。現在年中組の担任ですが、毎日一人ひとりの遊び方や活動の取組み方の違いなどに気付かされ、それを受け止めて、保育に励んでいます。今回の新任歓迎会では、保育をする上で大切なことは、子どもたち一人ひとりの関係を築き上げていくことと伺いました。探り探りですが、子どもたちと真剣に向き合っているように思います。子どもたちには、神様がどんなときでも一緒にいて下さることや、誰もが神様に愛されていることを伝えていきたいです。歓迎会では、祈ることが保育への力であることも学びました。

## 子どもと共に歩む保育

聖マルコ幼稚園

尾下亜衣

初めての研修ということで、緊張して行ったのですが、穏やかな雰囲気の中で貴重なお話が聞け、同期との交流もあり充実した時間を過ごすことができました。

特に古旗先生のキリスト教の幼稚園に通っていた女の子が大きな病気をした時に「神さま、イエスさま」とお母さんに言い、その後回復したところ、大怪我をした子どもが「お祈りしたら気持ちが悪くなった」と言っていた話が印象的でした。幼い時の礼拝の体験は子どもに大きな力を与えるのだと感じました。また新任歓迎のメッセージでの「子どもたちから沢山のことを学び、自分自身を見失わないように」という草ヶ谷先生の言葉に励まされました。研修後は明日からもまた頑張ろう、子どもと共にこれからも歩んで行きたい、と感じました。



## 〈役員会報告〉

書記 奈良昌人

役員会は四月四日(月)、四月二十八日(木)、六月二日(木)、六月二十七日(月)に開催されました。主なことを報告いたします。

◆四月十二日(火)に開催された二〇一一年度総会議事録を承認しました。

◆二〇一一年度夏期講習会

八月二十三日(火)関東学院大学にて行ないます。全体会講師はノートルダム清心学園理事長渡辺和子先生。午後はジョン・チャヌ(丁 謙宇)氏のヴァイオリンコンサートです。

◆新任歓迎会

四月二〇日(水)清水ヶ丘教会にて行なわれました。

◆新任教師研修会

六月八日(水)横浜英和幼稚園にて「信じるゝ見えないものに目を注ぐ」と題して部会長島田勝彦先生にお話しをしていただきました。

◆第一回講演会

六月十五日(水)に藤沢教会付属みくに幼稚園にて、子どもの園和田靖子先生よりお話しをしていただきました。第二回講演会は十一月十六日(水)松沢教会石川正信氏より讚美について楽しく学ぶ予定です。

◆設置者・園長・主任懇談会

六月二十七日(月)清水ヶ丘教会にて開催され、保育現場における放射能汚染を危惧する環境、食育について情報交換をしました。

◆被災地訪問(お見舞い)

五月三十日(月)〜三十一日(火)部会より森田裕明先生、古旗誠先生、清水水臣先生、奈良昌人先生が千厩幼稚園、石巻栄光幼稚園、原町聖愛保育園を訪問しお見舞金を渡しました。

## 編集後記

3月11日に起きた東日本大震災から5ヶ月が経ちました。被災地の復興を私達一同もお祈りしたいと思います。今回の特集は「我が園の防災対策」です。それぞれの園のお働きに得る事が沢山ありますね。貴重な原稿をお寄せ下さった各園に感謝致します。

発行日 二〇一一年八月二十三日

印刷所 樋口タイプ印刷

編集者 神奈川部会 広報担当

片瀬のぞみ幼稚園 草ヶ谷 弘子  
のぞみ幼稚園 藤田 希恵子